ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

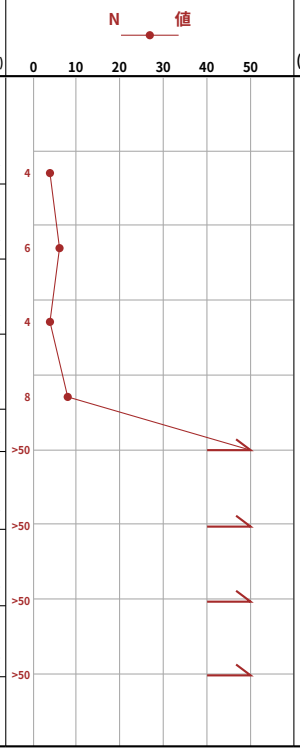
ボーリングNO.									
シートNO.									

ボーリング名	B-4	調査位置				北　緯	36 ° 36 ' 41.7000 "
発注機関	栃木県鹿沼土木事務所			調査期間	2009-08-20 ～ 2009-08-25	東　経	139 ° 41 ' 58.7000 "
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	206.02 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 0.00 °	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘進長	8.00 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
1					シルト質砂礫 (GSM)	暗褐～黒褐			[1.00]最上部40cm程度は、ゴミ、杉の皮が混じり人為的に乱されている。 崖錐堆積物である。 φ0.5～3.5cmの角礫を多く含む。礫の含有率は60～70%程度である。マトリックスは上部は粘土分多く下部はシルト主体。 下部は礫の含有量が多く、含水多い。 [4.00]4.00～4.35m間礫混じり粘性土。		
2											
3											
4	201.67	4.35	4.35								08/21
	201.42	0.25	4.60		砂礫 (GS)	茶褐			段丘堆積物である。φ5～3cmの円礫を含む。固結している。		
	201.22	0.20	4.80		砂岩 (Ss)	青灰			[5.50]細粒砂岩。4.80～4.90m間は貫岩で、細片化しいいる。		
5	201.02	0.20	5.00		砂岩 (Ss)	青灰			層状チャートである。 層理面は、緩傾斜～急傾斜までみられ、うねっている。岩質は硬い。 7.00m付近に巾2～3cm程度の粘土を挟む。傾斜角度は70 °。 7.00m付近の貫入試験試料は粘土化している。		
6					チャート (Cht)	暗灰					08/22
7											
8	198.02	3.00	8.00			暗灰					08/24

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	2	1	1	4／30	4
1.45					
2.15	2／13	2	2／7	6／30	6
2.45					
3.15	2／13	1／7	1	4／30	4
3.45					
4.15	1／20	7		8／30	8
4.45	50／3			50／3	>50
5.00					
5.03					
6.00	50／7			50／7	>50
6.07					
7.00	50／9			50／9	>50
7.09					
8.00	50／4			50／4	>50
8.04					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験